

広島大学平和科学研究センター

Newsletter

2002 年

〒730—0053 広島市中区東千田町 1—1—89

tel: 082-542-6975 fax: 082-245-0585

email: heiwa@ipc.hiroshima-u.ac.jp

<http://www.ipc.hiroshima-u.ac.jp/~heiwa/>

ごあいさつ

このたび松尾雅嗣センター長からバトンタッチを受け、センター長に就任させていただきました大学院国際協力研究科の中山修一でございます。本センターが1975年の設置以来、27年の輝かしい伝統をもつ国立大学で唯一つの平和学研究に特化した特色ある研究センターであることはよく理解しているつもりです。それだけに、私のような平和学の素人がとうていお引き受けできるようなものでないと考え、お引き受けを躊躇しました。しかし、センターの教官の方々には、私が研究科長を4年間勤めさせていただいた大学院国際協力研究科の協力講座の教官として、大変な御協力をいただいたことへの感謝の気持ちがございます。そのことが、今回お引き受けする決心をさせてくれました。

また、これまでの数年間、大学院国際協力研究科の改組発展の大きな柱の一つに平和協力分野を位置付け、本センターを同研究科の附属施設として改組し、同時に平和科学研究センターの充実と発展を図ることを松尾前センター長と議論を重ねてきました。

広島大学は、大太平洋戦争敗戦後、原爆で焼き尽くされた広島の地に、新制大学の一つとしてフェニックスのごとく再生しました。それだけに大学の5大理念の第1番目に「平和の希求」を掲げています。広島大学の多くの教育研究活動の中で、「世界恒久平和の構築」に学問的先導を務めるために存在しているのが、本平和科学研究センターであると確信しています。私に課せられた課題は、平和科学研究センターを国際協力研究科の中核的研究センターとして充実し、広島大学の世界平和の構築に向けた国際貢献の先導的研究機関に位置付け拡充することであると考えています。

他方、2001年9月11日の米国での同時多発テロ事件は、アフガニスタンで新たな戦争を導き、さらにそれに誘発される状態でイスラエルとパレスチナの間で戦火があがりました。20世紀の終わりとともにすでに幕を閉じたと思われた「戦争の世紀」は、21世紀に入り新たな様相を見せはじめています。世界の恒久平和の達成は、姿を変えた「新たな紛争・戦争の世紀」の到来により、人類の叡智をますます必要とする重要課題となりました。

平和科学研究センターは、こうした地球的大課題に怯むことなく、平和構築、紛争解決、戦後復興政策等の研究に、その役割がますます重要になりつつあることを認識せざるを得ません。センター教官ならびに学内外の研究員の諸先生方の力を結集して、この目前の人类的緊急課題の解明に取り組まなければならないと考えます。

平和学に関心をもたれる学内外の多くの方々が、本平和科学研究センターの発展に絶大なるご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます、センター長就任のごあいさつとさせていただきます。

広島大学平和科学研究センター長 中山修一

2001年度平和科学研究センター活動

シンポジウム

広島大学平和科学研究センターの第26回シンポジウムは2001年12月1日、広島大学東千田キャンパスにて「紛争と人間の安全保障」と題して行われました。当日は内外の研究者、大学院生、一般市民の方々などの参加者がパネリストを囲んで活発な議論を展開しました。パネリストは以下の通りでした。

中西寛（京都大学教授）「安全保障概念の歴史と現在」

栗栖薫子（神戸大学助教授）「人間の安全保障とヨーロッパ地域機構」

高原孝生（明治学院大学教授）「人間の安全保障と平和学」

研究会

第136回（2001年7月14日）

篠田英朗（広島平和科学研究センター助手）
「国際平和活動における『法の支配』アプローチについて」（SCS利用）

第137回（2001年9月14日）

Victor A. Shnirelman, “Ideology of Ethnic Feud: Myths of the Past, Religion and Demography as Instigators of the Georgian-Abkhazian Conflict”

第138回（2001年10月17日）

宮脇昇「人間の安全保障、人権・民主主義、紛争予防：ベラルーシの事例をもとにして」

第139回（2001年11月2日）

横畑 泰志「領土問題と野生動物保護—尖閣諸島魚釣島のヤギ問題の場合」

第140回（2001年12月12日）

Glen D. Hook, “Regionalism in Theoretical and Comparative Perspectives”

第141回（2002年3月14日）

高柳彰夫「開発援助における『オーナーシップ』と『パートナーシップ』：NGOの文脈で」

その他

シンポジウム『新世紀の平和論』（2001年7月5日）（日本学術会議等と共催）

講演会 Dale L. Smith: Graduate Study in Political Science at Florida State University（2002年3月7日）

出版物

- ・『広島平和科学』（第23号、2001年）
- ・IPSHU 研究報告シリーズ研究報告 No. 27：『ポスト冷戦時代の核問題と日本』（1999-2000年度広島大学平和科学研究センタープロジェクト報告書）
（出版物の詳細についてはセンターのホームページをご覧ください）

センター専任研究員の研究教育活動

松尾 雅嗣 (教授)

学術論文：「核軍縮におけるアキレスと亀:もしくは過程ユートピアの陥穽」、広島大学平和科学研究センター編『ポスト冷戦時代の核問題と日本』、2001年、1-19頁。

- ・「言語の階層化に関する試論」、『広島平和科学』、23号、95-121頁。

Jimura, Akiyuki, Yoshiyuki Nakao and Masatsugu Matsuo, *A Comprehensive Textual Comparison of The Parliament of Fowls: Benson's, Robinson's, Brewer's, and Haveley's Editions*, 広島大学大学院文学研究科論集、61 (特輯号 3)、2001年、100頁。

教育：大学院国際協力研究科「平和学」、「世界秩序論演習」、「国際関係特論」(分担)。総合科学部「紛争解決論」、「戦争と平和に関する総合的考察」(分担)。医学部「医療国際協力論」(分担)。短期交換留学プログラム「人権と平和」(分担)。

学会での活動：日本平和学会理事・監事。

社会での活動：財団法人広島平和文化センター評議員。

研究費：萌芽的研究「国家公用語政策と国民形成の成否に関する比較研究」(12-13年度)(60万円)

小柏 葉子 (助教授)

学術論文：「南太平洋地域の核問題と日本」広島大学平和科学研究センター編『ポスト冷戦時代の核問題と日本』、2001年、21-38頁。

教育：大学院国際協力研究科「地域協力論」、「世界秩序論演習」、「国際関係特論」(分担)。総合科学部「地域協力政策論」、「戦争と平和に関する総合的考察B」(分担)。

学会での活動：日本国際政治学会評議員、日本平和学会編集委員、編集委員長、理事。

社会での活動：国立民族学博物館地域研究企画交流センター連携研究会「オセアニアにおける

国家統合と地域主義に関する研究」委員、社団法人日本・南太平洋経済交流協会「南太平洋委員会」委員、国連大学グローバル・セミナー島根セッション・プログラム委員、広島平和研究所特別研究員「21世紀の核軍縮」プロジェクト・メンバー、水産庁国際課「南太平洋諸国の動向についての勉強会」講師、広島県立大学運営協議会運営検討部会専門委員、広島県平和政策研究会委員、山陽女子短期大学非常勤講師「社会生活セミナー」、広島市立大学非常勤講師「平和と人権A」。

篠田 英朗 (助手)

学術論文：「核兵器使用と国際人道法—1996年核兵器使用と使用の威嚇に関する国際司法裁判所勧告の意見を中心にして—」、広島大学平和科学研究センター編『ポスト冷戦時代の核問題と日本』、2001年、119-199頁。

- ・「国際人道法の強行規範性と核兵器—核兵器の使用及び使用の威嚇に関する国際司法裁判所勧告的意見における *jus in bello* と *jus ad bellum*、そして法と政治—」、『広島平和科学』、23号、2001年、1-24頁。
- ・「国際社会における『法の支配』：新しい紛争解決の方向性において」、『創文』(2001年8月号)、7-12頁。
- ・“Introduction: Beyond Dichotomies,” Hideaki Shinoda and Hakan Seckinelgin (eds.), *Ethics and International Relations* (London: Palgrave, 2001).
- ・「国際規範の歴史的・理論的検討—秩序・正義そして国家主権—」、日本平和学会(編)『平和研究』第26号：新世紀の平和研究、2001年、86-96頁。
- ・「平和構築と国際刑事法廷—人道的介入としての国際司法介入—」広島大学総合科学部紀要II『社会文化研究』第27巻(2001年)、91-111頁。・「主権、人権、そして立憲主義の限界点—抵抗権および介入権の歴史的・理論的

考察一」、日本政治学会（編）『年報政治学 2001』（岩波書店）、157-169 頁。

- ・「『新しい戦争』における『速度術』と『警察化』」、『現代思想』（2002 年 1 月号）、120-131 頁。

学会報告：“Enforcing International Criminal Law as a Tool for Peace-building: An Examination of the Rule of Law Approach of Peace-building,” 2002 Annual Convention, International Studies Association, New Orleans, LA, USA, 25 March 2002.

- ・「国際関係論における国家主権概念の再検討—英米圏における法の支配の思想との関連において—」、2001 年度日本政治学会、立教大学、2001 年 10 月 13 日。
- ・「国際平和活動における『法の支配』アプローチについて」、広島大学平和科学研究センター136 回研究会、広島大学東千田キャンパス、2001 年 7 月 14 日。
- ・「平和・正義・戦争そして国家主権：現代世界における公的暴力の位相」、2001 年度日本平和学会中四国地区研究会「新世紀の戦争・国家・個人」、山口県立大学国際文化学部、2001 年 7 月 7 日。

翻訳：クリストファー・ヒューズ「日中関係と弾道ミサイル防衛(BMD)システム」、広島大学平和科学研究センター編『ポスト冷戦時代の核問題と日本』、2001 年。

研究費：平成 13 年度科学研究費補助金奨励研究 (A) 「平和建設活動の理論と現状—『法の支配』の観点から—」

- ・平成 13 年度日本学術振興会特定国派遣イギリス B (ケンブリッジ大学ラウターバクト国際法センター客員研究員)
- ・平成 13 年度前期広島大学研究支援金「武力紛争における劣化ウラン弾の使用」

- ・平成 13 年度学術振興野村基金研究プロジェクト助成金「地域紛争に関する平和・援助活動のデータベース化」

社会での活動：広島市立大学広島平和研究所「新介入主義の正統性と合理性」研究会メンバー

2002 年度研究プロジェクト予定

平和科学研究センターは 2002 年度においても引き続き「紛争と人間の安全保障」と題したプロジェクトを行います。

センター来訪者（団体、外国人研究者）

2001 年 7 月 9 日 Dr. Michael Green (アルスター大学教授)

2001 年 9 月 14 日 Dr. Victor A. Shnirelmann (ロシア科学アカデミー、民族学博物館客員研究員)

2001 年 10 月 1 日 Ms. Nassrine Azimi (国連訓練調査研究所ニューヨーク所長)

2001 年 11 月 9 日 名古屋大学教育学部附属中学校研究旅行 3 年 A 組 2 班

2001 年 11 月 27 日 Prof. Pam Rajput (パンジャブ大学教授、国際協力研究科客員教授)

2001 年 12 月 12 日 Prof. Glenn D. Hook (シェフィールド大学教授)

2002 年 3 月 7 日 Prof. Dale L. Smith (フロリダ州立大学教授)

出版物の予定

- ・『広島平和科学』（第 24 号、2002 年）
- ・IPSHU 研究報告シリーズ研究報告 No. 28：山田浩『ミサイル防衛 (MD) をめぐる現状と問題点』

訃報

平和科学研究センター科学研究センター客員研究員小寺初世子大阪国際大学教授と鎌田定夫長崎平和研究所長が逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。